秋冬にんじん産地の担い手の経営安定に向けて

～新規部会員のための現地検討会及び先進農家視察の開催～

１　課題の背景とねらい

ＪＡ千葉みらい千葉東部地区出荷組合連合会人参部会（58 戸）及び土気地区出荷組合連合会人参部会（17 戸）では、新規参入や親元就農により、平成 29 年から令和６年までに 11 名が部会に加入し、農業事務所は関係機関と連携して若手農業者の育成に取り組んできました。

新規部会員は作付面積の拡大志向があるものの、栽培管理技術不足や出荷・調製作業に時間がかかるなどの課題があります。そこで、令和６年度は秋冬にんじんの栽培管理技術の習得と経営改善を目的として研修会を開催しました。

２　普及活動の経過・結果

（１）管内の先進農家の経営を学ぶ

11 月 28 日に「令和６年度秋冬にんじん新規栽培者研修会」を開催し、対象の新規部会員 18 名のうち９名が参加しました。

露地野菜の栽培面積を就農時 2ha から今年度 14.7ha（うち秋冬にんじん 4.5ha）に規模拡大した、管内の千葉県農業士の経営を視察しました。規模拡大には、市場出荷で収入を安定させるために基幹品目が必要であることや、農家同士のコミュニケーションの大切さ、労務管理の工夫などについて説明してもらいました。部会員は、雇用導入に関することや経営の悩み、栽培管理技術などについて質問し、経営改善について学ぶことができました。

写真１　出荷調製作業場の視察

出荷調製作業場では、洗い場から選果、出荷までの動線について視察し、作業を能率的にする工夫が学べました。

視察後に部会員からは、「先進農家の経営や他の出席者の話を聞くことができ、視野が広がった」「将来の営農に向けて、労務管理や経営改善について考えることができた」等の感想がありました。今回の研修会を通して、部会員は将来の規模拡大に向けて目標や改善策を明確にすることができました。

（２）太陽熱消毒試験の現地検討会

近年は 7～8 月の高温・干ばつによる、収量と品質の低下が課題となっているため、太陽熱消毒の被覆による土壌水分保持とセンチュウ類の防除を目的

に実証試験をしました。試験では土壌水分保持効果は明確になりませんでした。しかし、センチュウ類の防除効果と、副次的効果として雑草防除効果が認められました。現地検討会で農業事務所と実証担当農家から結果について説明し、意見交換の場を設けたことで部会員の理解が深まり、「太陽熱消毒を実践してみたい」という声や、今年の栽培管理状況、次作の技術改善について前向きな意見が出ました。

写真２　太陽熱消毒のためのマルチ被覆

写真３　太陽熱消毒試験ほ場での現地検討会

３　今後の課題

新規部会員が規模拡大し経営を安定させるために、今後も栽培管理技術の向上と継続的な情報収集や相談ができる先輩農業者や仲間とのつながりを築けるよう、関係機関と連携して支援します。

４　担当者

千葉・習志野グループ　◎間宮ちさこ、木村明花音、石塚真理子

５　協力機関

ＪＡ千葉みらい、千葉市農政センター、農林総合研究センター土壌環境研究室